

20周年を迎えた 福祉情報工学研究会の実績

2021/3/6

名古屋工業大学
酒向 慎司

福祉情報工学研究会 設立趣旨

ヒューマン・コミュニケーション・グループでは、このほど、障害者や高齢者の情報・通信関連の諸課題に取り組む先端的情報・通信技術や科学をはじめ、認知科学、言語処理、HIなど関連諸研究に従事する研究開発者が一同に会し、発表、討論する場を提供することを目的とする第二種研究会「福祉情報工学研究会」を設立いたしました。国内だけでも視覚障害者が約30万人、聴覚障害者が約35万人、肢体不自由者が約170万人、盲聾者約3万人など約300万人の身体障害者がおり、高齢社会の進展とともに中途障害者も増加しつつあります。また、50歳で約25%、75歳で約75%の人たちが何らかの障害を持つともいわれています。一方、情報通信技術の高度化が進む中で、残念ながら、この多くの障害者・高齢者が情報弱者として取り残されつつあります。一方、このような状況の中で、この問題に対処すべく、多くの研究者や機関が先進技術を駆使して障害者、高齢者対応の情報・通信技術の研究開発に取り組んでいます。この研究開発・実用化には、障害者・高齢者自身やサポートするボランティアなどが求める機能や性能を明確にし、その視点から結果を評価することと、それを実現する為の、先端技術を活かした方法論が必要であることはいうまでもありません。そこでは、それぞれについて十分な検討がなされるとともに相互に十分に整合の取れたものでなければ、真に効果を上げることはできません。このような状況に鑑み、今回本研究会を設立した次第です。本研究会は、関連分野の諸学会や研究会とも積極的に提携し、この分野の交流の輪を広めると共に、研究開発活動の発展に寄与して行きたいと考えております。皆様の研究発表と討論への積極的参加をお願いいたします。

平成11年11月 福祉情報工学研究会

第1回 福祉情報工学研究会

- 1999年11月5日(金) ~6日(土)
- NEDO白金台研修センター(目黒駅), 工学院大学新宿校舎6階611教室(新宿駅)
 - ※ 2か所なのは参加者が予想以上で別会場を手配したため(追記)
- 委員長: 市川 熹
- 副委員長: 野城 真理
- 幹事: 安藤 彰男, 畑岡 信夫
- 幹事補佐: 佐藤 秀一, 伊藤 英一

私のWITとの関わり

WITに関わるようになった契機

- 最初の発表(共著)は2005年5月の第25回研究会(かの屋久島研究会)
 - 西本卓也先生の早口音声合成
- 2011年に幹事補佐として幹事団に加わる
- もう一つの契機も..

WIT歴代幹事団

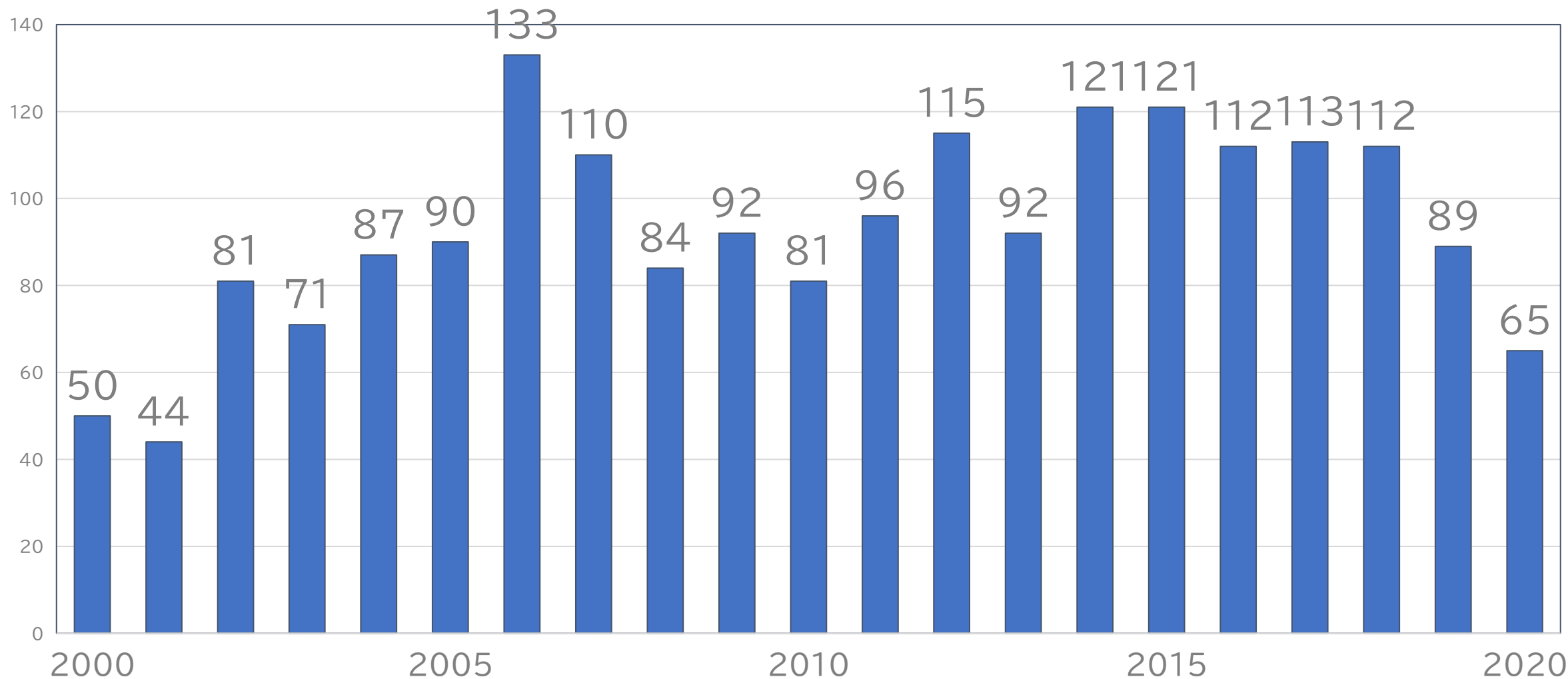


年度	委員長	副委員長		幹事（企画・会計・情報保障）			幹事補佐			
令和2年	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	
令和元年	若月 大輔	酒向 慎司		半田 隆志	塩野目 剛亮	↑	菅野 亜紀	↑	細野 美奈子	
平成30	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	
平成29	和田 親宗	若月 大輔		↑	↑	雨宮 智浩	↑	宮城 愛美	半田 隆志	
平成28	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	半田 隆志
平成27	布川 清彦	和田 親宗		酒向 慎司	梶谷 勇	↑	塩野目 剛亮	↑	宮城 愛美	
平成26	↑	布川 清彦		↑	↑	↑	↑	↑	↑	
平成25	井野 秀一	泉 隆		和田 親宗	酒向 慎司	↑	伊藤 尚	雨宮 智浩	梶谷 勇	
平成24	↑	↑		↑	↑	若月 大輔	前田 義信	↑	↑	
平成23	大倉 典子	井野 秀一		縄手 雅彦	渡辺 真望		↑	酒向 慎司	和田 親宗	
平成22	↑	↑	大倉 典子	↑	↑		若月 大輔	↑	↑	
平成21	渡辺 哲也	西本 卓也		今井 篤	竹内 晃一		河野 純大	縄手 雅彦	渡辺 真望	
平成20	↑	↑		↑	↑		↑	↑		
平成19	中山 剛	樋口 宜男	渡辺 哲也	西本 卓也	河野 純大		今井 篤	竹内 晃一		
平成18	↑	↑		↑	坂井 忠裕		河野 純大	↑		
平成17	長嶋 祐二	中山 剛	樋口 宜男	↑	河井 良浩		↑	西本 卓也		
平成16	↑	長嶋 祐二		渡辺 哲也	↑		坂井 忠裕	↑		
平成15	岡本 明	安藤 彰男		長嶋 祐二	中山 剛		↑	河井 良浩		
平成14	野城 真理	岡本 明		↑	↑		渡辺 哲也	↑		
平成13	↑	↑		↑	↑		↑	↑		
平成12	↑	↑		↑	↑		↑	中山 剛		
平成11	市川 熹	野城 真理		安藤 彰男	畑岡 信夫		佐藤 秀一	伊藤 英一		
年度	委員長	副委員長		幹事（企画・会計・情報保障）			幹事補佐			

WITの発表実績

全111回で2,008件の発表(共催分含む)

年度ごとの発表件数



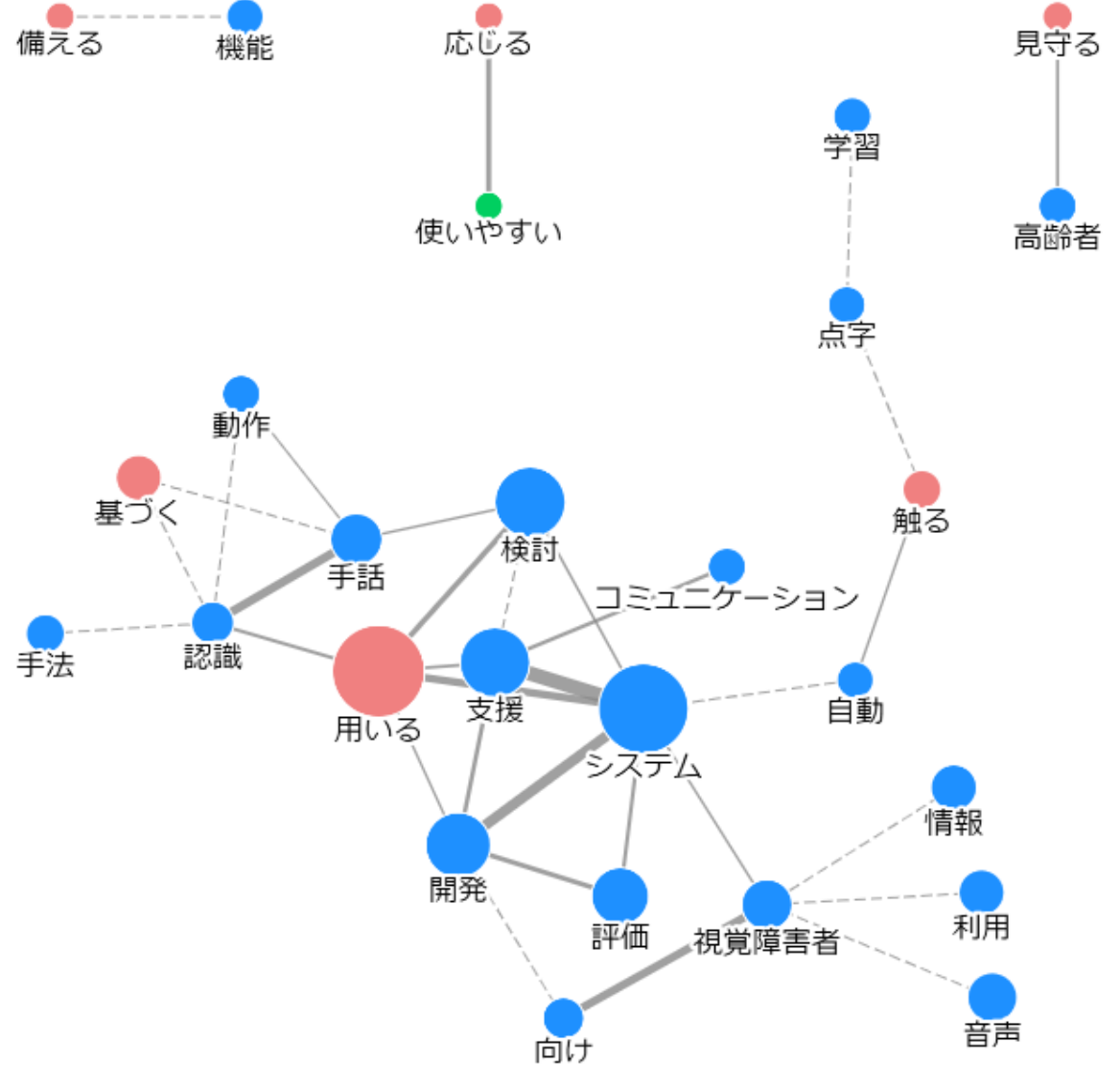
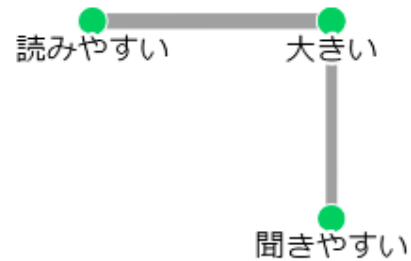
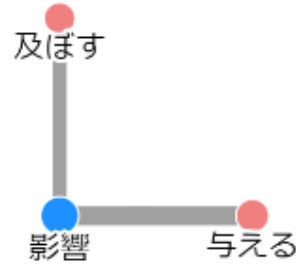
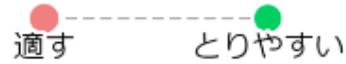
発表実績について

- 年間100件弱を20年間コンスタントに維持
 - 回帰式は $y=1.77x-3472$
 - 予稿を積み上げると… 30cmぐらい
- 膨大な研究者が参画
 - 全著者リストの総数は7,307名
 - 重複を除くと.. 3,434名

著者ランキングtop30を調べてみました

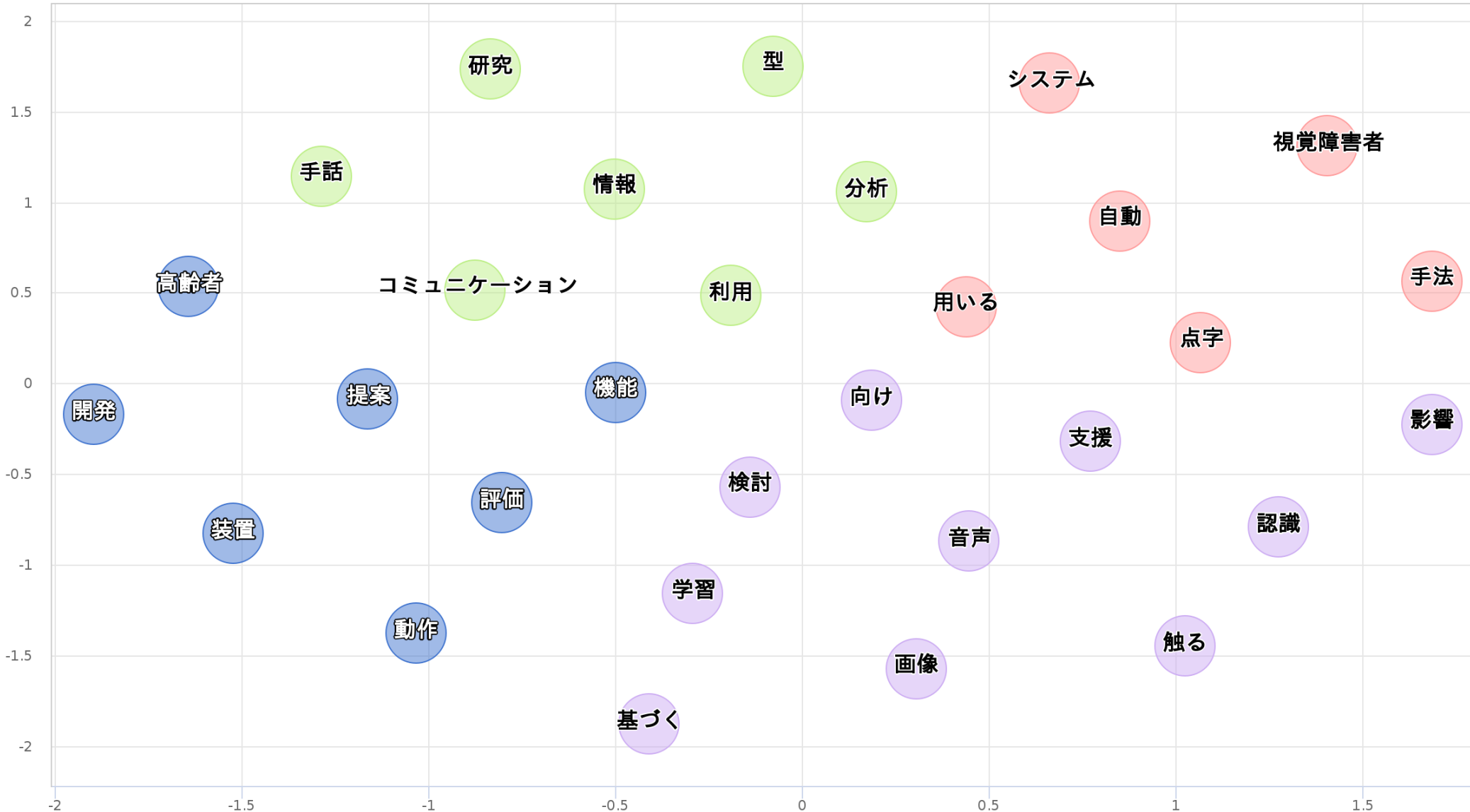
top10	~20	~30
渡辺 哲也 86	若月 大輔 31	伊藤 和幸 26
米村 俊一 72	大西 昇 31	河野 純大 25
長嶋 祐二 64	井野 秀一 31	江崎 修央 25
堀内 靖雄 49	竹内 義則 29	酒向 慎司 24
林 豊彦 42	神田 和幸 28	工藤 博章 24
市川 熹 41	坂井 忠裕 28	三好 茂樹 24
山口 俊光 41	皆川 洋喜 27	松本 哲也 23
前田 義信 41	滝沢 穂高 27	半田 拓也 23
小林 真 38	加藤 伸子 27	西田 昌史 22
渡辺 隆行 33	南谷 和範 26	西本 卓也 22

共起キーワード



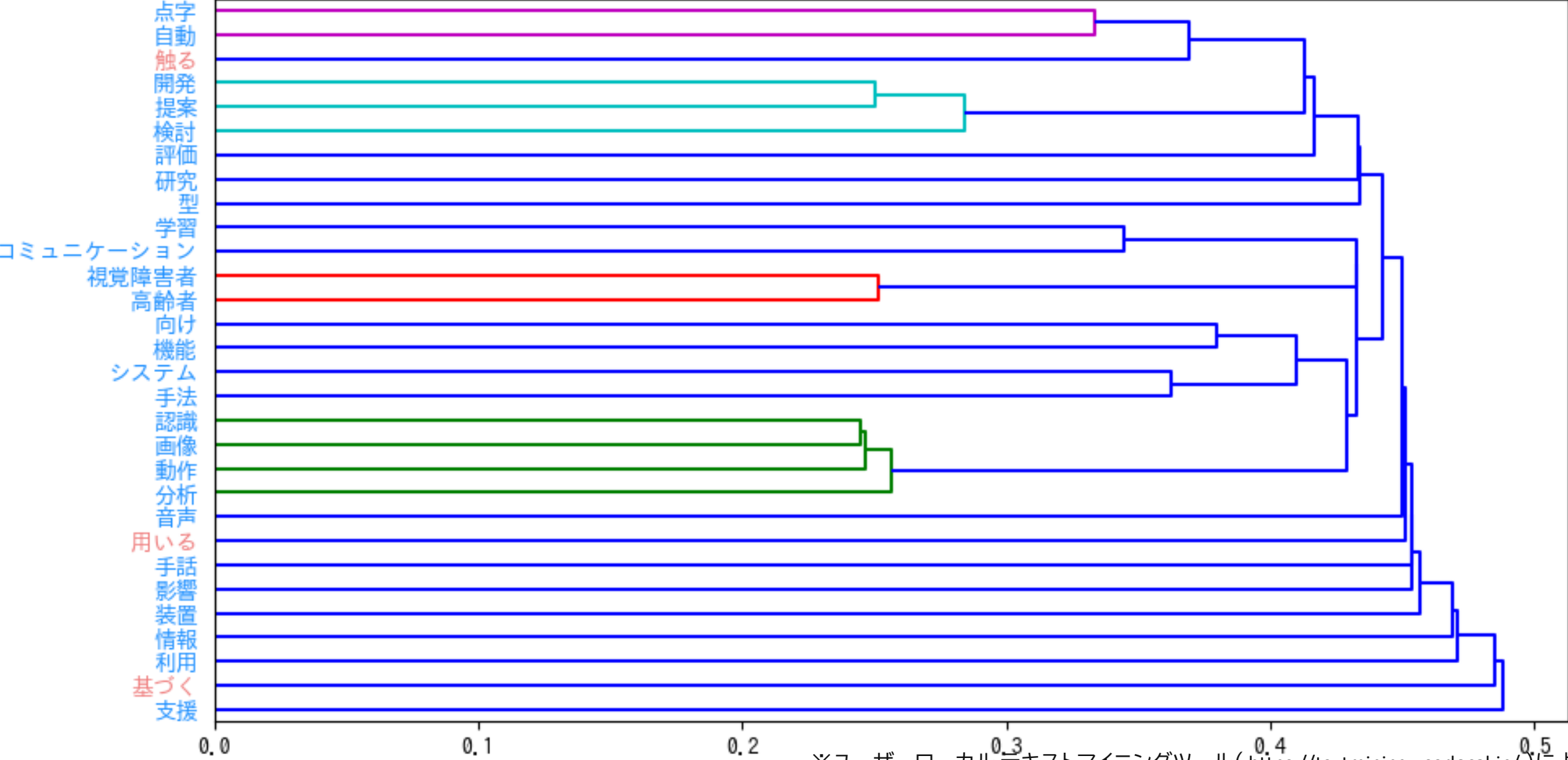
※ユーザーローカル テキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)による分析

出現傾向の似た単語



※ユーザーローカル テキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)による分析

階層クラスタリング



※ユーザーローカルテキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)による分析

情報保障ワーキンググループ

情報保障の実施

- 研究会立ち上げ当初(第2回)から手話通訳を実施
- 以降, 手話通訳・要約筆記・磁気誘導ループ・点字資料作成など30回以上の実施
- 途中から電子情報通信学会HCGグループによる予算確保
- 幹事団を中心に情報保障のあり方・手配の方法など有用なノウハウを蓄積・波及

論文作成・発表アクセシビリティガイドライン

- WITホームページの[「発表ガイドライン」](#)に掲載
- 論文作成・発表アクセシビリティガイドライン
- 論文作成・発表アクセシビリティガイドライン チェックリスト
- 学会・研究会等における情報保障マニュアル
- 学会・研究会等会場へのアクセス配慮チェックリスト
- 情報保障マニュアル添付資料1(手話通訳・要約筆記依頼先)
- 情報保障マニュアル添付資料2(手話通訳費用の例)
- 情報保障マニュアル添付資料3(点訳依頼手配先リスト)
- 情報保障マニュアル添付資料4(新しい技術による情報保障)



会議・プレゼンテーションのバリアフリー



- 2010年4月発行
- 電子情報通信学会情報保障WG 編
- 障害のある人が学会や研究会に参加する場合に、点字や手話などその人たちが使える方法で多くの情報を提供する情報保障が必要となる。本書はいろいろな場で情報保障を進められるように学会で作成したガイドラインをもとにまとめた。
- [コロナ社のサイトへ](#)

会議・プレゼンテーションの バリアフリー

—“だれでも参加”を目指す実践マニュアル—



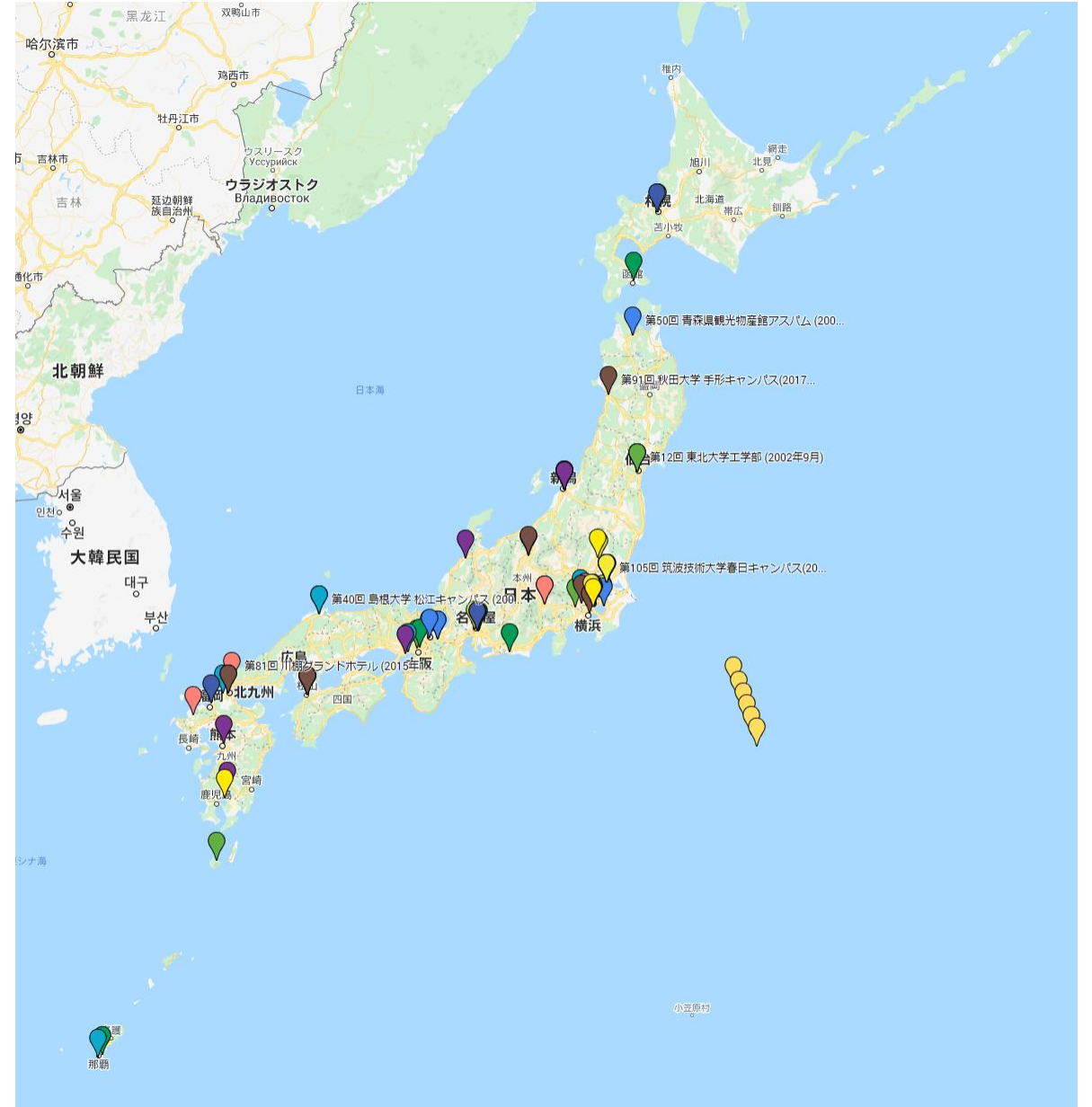
電子情報通信学会 情報保障ワーキンググループ

社団法人電子情報通信学会

WIT研究会の開催地

これまでの開催地

- WITのホームページ
 - [研究会開催案会→開催地マップ](#)



これまでの開催地と回数一覧

- 39回: 東京
- 9回: 茨木
- 6回: 新潟, 愛媛, Zoom(オンライン)
- 5回: 愛知
- 4回: 福岡
- 3回: 北海道, 鹿児島
- 2回: 宮城, 栃木, 千葉, 山梨, 長野, 京都, 大阪, 兵庫, 島根, 沖縄,
- 1回: 青森, 秋田, 秋田, 埼玉, 神奈川, 石川, 静岡, 滋賀, 山口, 佐賀, 熊本

WIT未開催地

- 東北: 岩手, 山形, 福島
- 関東: 群馬
- 中部: 三重, 岐阜, 富山, 福井
- 近畿: 奈良, 和歌山
- 中国: 岡山, 広島, 鳥取
- 四国: 香川, 高知, 徳島
- 九州: 長崎, 大分, 宮崎
- 海外

積極的な誘致活動をよろしくお願いします！

おわりに

来年度は委員長を務めます。これまで積み上げられてきた資産を最大限に活用し、発展させていきたいと思えます。引き続き、皆様の積極的な研究会への参加をよろしく願います!